



国鉄新潟

NO. 704
発行
10・8月20日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
関川 和彦
編集責任者
教 宣 部

雇用の実現をこの二年で



八月一日国鉄闘争報告集会で、加藤晋介弁護士の記念講演が行われました。1047名JR不採用問題の中間総括と今後の課題について約一時間の講演でした。

1047名JR不採用問題の中間総括と今後の課題 記念講演 加藤晋介弁護士

政治和解、雇用・年金・解決金（二〇一〇・四月九日）四党が国交省へ申し入れ、政府が受け入れた。雇用・年金・解決金を要求し一定の枠組みを取った。（解決年金相当分「ひとり二〇〇万円」。九〇四世帯「六月三〇日一七〇億円振り込まれた。金銭的には和解し訴訟を取り下げた。訴訟を取り下げると、今まで争っていたことが、全く無かったことになる。しかし、最高裁は、ここに集めて取り下げた。高裁の南裁判長の判決は残る。四者四団体の抱える五つの訴訟解決金約二百億円、仮執行金約三〇億円、百七〇億円の支払い和解と訴訟取り下げによる訴訟

終了と不係争条項
JRへの雇用
今後について、和解条項・鉄建公団とは、雇用・不当労働行為については争えないこと。年金は解決しないが、解決金に年金相当分を含めたのでいちおう履行した。



新聞の作り方

「見出し」とはよく言った

新聞を開くと最初に目に飛び込む本文記事より大きい目の文字の並びが「見出し」です。ここで読むか、読まぬか、見出しが決め手になるのが分かるでしょう。紙面のレイアウトが顔なら見出しは「目」にあたります。目は口ほどにモノを言い、見出しに目を通せば記事の中身は一目瞭然といきたいものです。それで、「わかっちゃいるけど、本文の記事も読もうか」と誘いこむのが「見出し」の身上です。

内容から決まってくる

では、どう決めるか。記事＝本文から「取り立てて」「内容をつかんで表現し」「問題と結論を示す」こと。つまり記事の簡潔な要約を作ることです。

やはり一つの文章である

見出しは、読者の関心を引き起こす文章になっていなければなりません。それでなければ読者が読んで分かるということにならないです。だから主語、述語があるし、形容詞だってあっていいのではないのでしょうか。それが、表現の違いです。



雇用については政府がJRへ要請する。初めは四党が要請するかどうかだったが、政府が要請することになった。
JRは民営なので雇用については強制されない。東日本・東海・西日本は、完全民営化されたが、その他のJRは民営されていない国が一〇〇%の株を保有している。
国鉄改革の歴史的な意味と国鉄闘争の経過
裁判闘争「二二〇〇万円の解決金は評価されるか、家族を巻き込んで二三年間苦しい闘いがあった。そのことについて解決金の額はどのなのか？
国鉄闘争はどうだったのか。

国鉄改革を、その当時、中曽根が「国労 総評をつぶすためにやった」一九八五～八七年、この時期は経済的に国が破綻寸前になっていた。赤字が膨大になった。構造改革をするため、反対勢力をつぶすために労働組合をつぶした。
国労・総評をつぶすため
国鉄改革を、その当時、中曽根が「国労 総評をつぶすためにやった」一九八五～八七年、この時期は経済的に国が破綻寸前になっていた。赤字が膨大になった。構造改革をするため、反対勢力をつぶすために労働組合をつぶした。



国鉄改革は、公共事業を進め赤字を増やしていった。そして、国内資本から世界資本へと変わっていった。

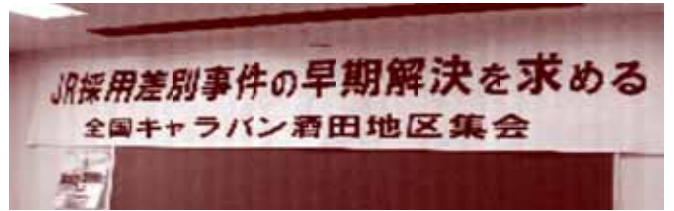
厳しい攻撃が徹底された

法的な枠組み「国鉄改革法二三条」
「JR採用基準・名簿の作成」

「瀬島」 国労自殺・戦略・厳しい攻撃が徹底され国労は1/4に減らされた。

地裁で勝利命令が出されたが中労委へ、そして裁判へ長期化となった。改革法二三条によって勝利できない。国労組織がつぶれる危機感。そのため、政治的解決・四党合意にかけた。

法的な解決ができない状況なので政治的解決へ運動が進んでいった。



民主党圧勝で政治環境が変わった

衆議院選挙で民主党が圧勝し政治環境が変わった。そこから、雇用・年金・解決金の解決へつながっていった。

しかし、救済基準が低い。不当労働行為・不当な差別などから考えると基準が低すぎる。

今回の解決案は敗北だが、その敗北から闘いを新たににつくっていくこと。JRの統合の話が出ている。

二〇〇名の雇用について「今の闘いの力は、これから一年くらいの期間しか無いと言える。だから、これから、あと一年、どう闘っていくのか訴えたい。」

山脈集推薦作品

堀 松白 選

S.L.を語れば尽きぬ猪口二つ
見ぬ振りができぬ男のさして口
煮こぼれた言葉に積木又崩れ
駐業の紙を貼られた豊松車
くたびれた辞書でいくさがまだ続く
あるまじき事の多さに腹をたて
酸欠の街で賛美歌が流れ
老いの負が交代劇を書けと言う
核廃絶さげぶ田嬢も泥の中
徒花が受胎の夢を持ちつつけ

吉野 和夫
梶野 正二
辻 敬子
木下 草風
花房 桃風
長沼 春雷
兼行 幸枝
舟山 智恵
佐藤 岳俊
稲葉 長生

時々の手抜き料理に癒される
年金で暮らし背伸びはしておれぬ
出目金と脱めっこするワンカップ
昭和史を背負って改革許せない
ガラス越し冬の科白が置いてある
炎天の枕木に確かな誇り
舞い上がる火の粉女の執念が
怒らねば休耕田が寒くなる
雑草に習って生きた今がある
切り札のスペアも持っている余裕

松尾 和香
小西 雄々
山本 はじめ
渡邊 正治
辻 敬子
田中 道博
平田 恵
野村 稲波
宇野 幹雄
太田 健次郎

文芸特集

今回は「鉄道川柳」平成二一年三月号の山脈集推薦作品を紹介します。
現在は、過去の作品を中心に紹介していますが、新しい作品も紹介していきたいと考えています。

地本・教宣部へ作品をお寄せください。川柳の他にいろいろなジャンル作品も紹介していきたいと思えます。

ぜひお寄せください。

編集後記



加藤弁護士から、約一時間の講演でしたが、今だから話せる内容や裏話など、興味深い内容でした。
講演でも、雇用問題について話されていましたが、雇用確保について、全面解決に向けて運動を進めていかなければなりません。
今の闘いの力は、長くて一年。この一年をどう闘っていくのが重要と、加藤弁護士の最後の話はとても印象的でした。

毎日、猛暑が続いています。身体は夏ばて気味ですね。八月に台風が接近して、風雨など心配しましたが大きな被害が無くて良かったですね。
その後、雨が降り少し涼しくなり過ぎしやすくなりました。今、お盆で連休の休みの中、機関紙を編集しています。涼しくなり、はかどりました。

